



【創刊号】2005年10月7日発行

【発行】柏書房株式会社
〒113-0021 東京都文京区
本駒込1-13-14
☎03-3947-8251(代表)
〈題字〉林英夫

非売品

※古文書好きの二人が語る
ひとりでもできる

一いちからの手習い

柏書房では創業以来、古文書字典をはじめ、多種多様な入門・学習書を刊行してまいりました。

そして柏書房は、これまで以上にもっと多くの方々に、古文書と親しみ、魅力を知ってもらえるよう、その情報発信源となるために本誌「古文書かわら板」を創刊いたします。

刊行第一弾の巻頭対談といたしまして、今年二月に刊行

された『古文書はこんなに面白い』をご執筆してくださいました油井宏子さんをお招きし、編集を担当した小代と二人で、古文書談義に花を咲かせました。

※古文書にまったく歯が立たず……

小代——本日は、古文書の魅力などについて、油井さんとざくばらんにお話したいと思います。まずは、古文書との出会いについてお聞かせください。

油井——古文書とは大学二年生のときに出会いました。信じられないかもしれませんが、古文書を見た瞬間に夢中になりました。

小代——出会った瞬間に夢中になるとは。そのとき、何が起ったのですか。

油井——それまでの自分が知っていたのは教科書や研究書など「活字になっている固まった歴史」だけでした。しかし、その基礎には古文書とい

新しい古文書と出会うたびに夢中になって 字を覚えていきました。(油井)



油井宏子 (あぶらい・ひろこ)
—— 1953年生まれ。東京女子大学文学部史学科卒業。船橋市や市川市の公立中学校教諭を経て、1989年からNHK学園古文書講師。市川市や千葉市などでも古文書講座の講師を務め、古文書の楽しさ面白さを伝えている。

うものがあって、そこから歴史が生まれているんだ、という驚きや、古文書を実際に読むことによって自分自身で歴史をじかに感じることが

できる喜びというものが得られたことが大きいです。読めば読むほど古文書の面白さにはまっていきました。

小代——古文書は江戸時代のいろいろなことがわかる重要な文字情報ですからね。

油井——私たち現代人が知っている江戸時代のことの大部分は、古文書に書かれていたことが元となっているわけですから。

小代——まさに、「古文書から歴史が生まれている」ですね。

油井——その通りです。

小代——油井さんも初めて古文書と出会ったときには、ぜんぜん読めなかったのですか？

油井——それはもちろんです(笑)。まったく読

めませんでした。ですから「絶対に読めるようになりたい」と思いましたので、授業で出された課題以上に、ほかの古文書もたくさん読みました。

小代——数をこなしていったわけですね。

油井——また、ただ字を読んでいくだけではなく、いろいろな解釈を試みたり、どうしても読めない字があったら先生に聞きにいたり、そういうことを繰り返しながら勉強していきました。

小代——なるほど。

油井——先生も私が熱心に取り組んでいるので、史料調査などに誘ってくださったりして、そこでもまた新しい古文書と出会い、わからない字と格闘しながら夢中になって覚えていく、楽しくて面白くてやめられないという感じでした。

小代——楽しかったんですか？

油井——楽しかったですよ。

小代——私は楽しくなかったんです。

油井——それはなぜなの？

小代——私も油井さんと同じで大学二年生のときに出会ったのですが、「史料調査実習」という授業が夏休みに博物館であって、コピーではない本物の古文書をいきなり渡され、「これを読んで内容を目録にしなさい」と。もともと日本史は好きでしたが、教科書や歴史小説、図録を読んで得た程度の知識しかありませんでしたから、それこそ一行も読めません。その時間は苦痛以外の何ものでもありませんでした。一文字ずつ全部先生や先輩に聞いていたんですよ。これが私と古文書との出会いです。

油井——そんな状態だった小代さんがどうして古文書を読めるようになったのですか？

小代——これも油井さんと同じですが「絶対読めるようになる」と決めたからです。実習のときスラスラと読める先輩がいます、それが羨ましかったし、読めなかったことがくやしかったですね。

油井——くやしきからの出発ですね（笑）。

小代——そうです。古文書は読めないと楽しくないですから。

❖私はこうして読めるように

小代——古文書と出会っても、それが読めなければ先に進みません。油井さんはどうやって古文書を勉強したのですか。

油井——これは『古文書はこんなに面白い』にも書いたことですが、自分で字典（マイ字典）を作りました。ノートにインデックスをつけて、

例えば「可」が出てきたら「か」の欄にくずし字をまねして書き込む、この作業を繰り返すんです。同時に市販されている字典で確認するということも徹底的にやりましたよ。字典で探されなかった字は先生や先輩など、読める人に聞きました。小代さんはどのように勉強されましたか。

小代——私は、マイ字典は作らなかつたのですが（笑）、それこそ字典が壊れるくらい、とにかく字典を引き続けました。はじめは字典を引くための基本となる偏（へん）も旁（つくり）も何にもわからないわけですから、一ページ目の最初の文字から一つずつ似た字がないかを探し続けるので時間はかかりますよね。最初のころは小社の古文書字典でしたが、その次は他社（笑）の一〇〇〇ページ以上もある字典を使っていま

したから、これは大変な労力です。

油井——近藤出版社の『くずし字用例辞典』のこ
とですね（※編集部注、現在は東京堂出版より
刊行）。

小代——どことは私の口からは言えません（笑）。
あと、同じ史料だけでなく、ほかの史料のなか
にも、とにかく似た文字はないか、同じ偏や旁



小代 渉（おじろ・わたる）
——1970年生まれ。千葉大学大学院教育学研究科修了。千葉市立郷土博物館嘱託を経て、2000年柏書房入社。2002年より千葉市で古文書講座の講師も務める。

の文字がないかを徹底して探しました。これは結構重要です。「御」や「候」などは何度でも出てきますから。

油井——そうですね。登場した文字が繰り返し出てくることを確認することは重要です。『古文書はこんなに面白い』の解説のなかでも、「同じ字が何ページに出ています」と、しつこいくらいに書きました。

小代——古文書に慣れるまでは、前後の文章から文字を判読するという作業は困難でしたので、とにかく一文字一文字と格闘しながら覚えたという具合です。ほかには、わからない字があったときに、ただ人に聞くのではなくて、あらかじめ字をいくつか予想してから聞きに行くということも意識してやりました。そして聞いたあとも必ず字典で確認しました。間違ったことを

わからない字があつた時に、人に教えてもらうだけの学習では上達しません。(小代)

教わつてしまったかもしれないですから(笑)。

油井——それは大事なことです。人に字を聞く

ときに、「ぜんぜん読めないんですけど何です

か」という姿勢ですと、なかなか上達しません。

小代——答えを聞きつばなしだと、右から左へ抜

けてしまうだけです。『古文書はこんな

面白い』をはじめとする古文書入門書の読者へ、

古文書の学習にあつて、ほかに何かアドバイ

スなどがありますか。

油井——例えば一点の古文書でも何回も何回も繰

り返し読み込んだり、私の『古文書はこんな

面白い』であれば、長文の史料を二点掲げてい

ますので、そこに出てくる字はすべて暗記して

しまうくらい読み込む、という勉強の仕方があ
るかと思います。

小代——確かに一回読んで、答えあわせをして、

ハイ終わり、という学習では上達しませんよね。

一枚物の古文書であれば、だいたい一〇〇字か

ら二〇〇字くらいは書かれていますから、文字

を覚えるとともに、その偏や旁もきちんと覚え

れば、かなり上達します。

❖古文書はみんなのもの

小代——油井さんの著書『古文書はこんな面白

い』は二月に刊行されたわけですが、古文書

の学習書を執筆しようと思った最大の理由は何

だったのでしょうか？ 出版社からの依頼があつ

たからとは思いますが、短い期間にもかかわらず、情熱をもって仕上げられた。

油井——自分でも研究は続けているのですが、私

には「古文書は研究者だけのものではない」という考えがあります。一般の方にこそ古文書を読んでもらいたい、私なりの言葉で置き換えれば「古文書人口を増やしたい」ということです。

歴史家の目を通した江戸時代とか小説家が表現した江戸時代ではなくて、実際に自分で古文書を読んで、そこからダイレクトに江戸時代をつかみとるという経験してもらいたいと考えています。この想いを伝えたくてNHK学園をはじめ、いろいろところで古文書講座を担当し

てきたんです。

小代——私も油井さんの講座に参加させていただいたときに、その想いがピンピン伝わってきました。

油井——執筆の依頼があつたときに、本という形であれば、自分が実際に教えたことのない多くの方々に、「古文書はこんなに面白い」ということがわかってもらえるかと考えたのです。ですから原稿を書く手が止まることはありませんでしたし、タイトルもすぐに頭のなかに浮かびました。

小代——『古文書はこんなに面白い』は「古文書人口を増やしたい」という油井さんの熱い思いが随所に詰まっていますよね。魅力的なタイト

一般の方にこそ古文書を読んでもらいたいです。（油井）

ルだったということもあると思いますが、実際、読者からの葉書を見ると、これまで古文書とは無関係だった新しい読者が購入してくださっていることがわかります。

油井——これからの歴史をつくる二十代、三十代の若い世代の方、理工系の方などにもぜひ読んで欲しいですね。

❖次回作の主人公は？

小代——それでは、いよいよ最後になります。次回作についての簡単な予告をお願いします。楽しみに待っている方が大勢いらっしゃると思います。ただし、あまり詳しい内容はお話にならないでください（笑）。

油井——前作の『古文書はこんなに面白い』では、現代でいえば小学生のおでんちゃんと友八くん

を主人公にして、江戸時代に生きた子どもや生活の一端を垣間見たわけですが、今回は三十代前半の働き盛りの男性を主人公にした古文書を使う予定です。舞台は前作と同様に、ひとりには農村、もうひとりには江戸の町です。おでんちゃんや友八くんとは違って、社会の荒波にもまれていた二人の男性が、どのようなことをして、どうなっていくのか、二人の人生を追ってみたいと思います。楽しみにしていてください。

小代——ありがとうございます。次回作は来年二月上旬に刊行の予定です。

(二〇〇五年七月二日／柏書房会議室にて)

柏書房と古文書

林英夫

Hayashi Hideo

❖売れないと思った『古文書演習』

柏書房で立教大学日本史研究室編『近世古文書演習』が刊行されたのは一九六八（昭和四三）年のことであった。私は、講義のたびごとに古文書をコピーして学生に渡すことに疲れてきたので、当時社長だった故・高橋満さんに「古文書演習書」の出版を依頼した。売れるとはまったく思っていなかったもので、私を使う程度のものだろうか。一年に三〇〇冊くらいでも売ればよい。印税もいらぬ。初版は三〇〇冊くらいで」と言ったことを今でも記憶している。それからしばらく

経って、高橋さんから「『近世古文書演習』は売れそうです。朝日新聞に出した広告の反響が高く、電話が朝から鳴り止みません」との電話があった。私は意外なことだと驚いた。考えてみると、地方の出版物のなかには同種の本もあったが、全国版での広告は初めてである。この時、地方（じかた）の史料を読むことに関心を持つ方たちが増大していることを如実に知った。この当時は、かなりの数が売れたのである。その後、他社から同種の本が刊行されたことなどもあって、同書は品切となった。

◆日本初の古文書字典誕生

これに気をよくした勢いで、高橋さんから『古文書字典』を作ってほしい」という話があったが、「読めない人に引かせる字典などはない」とはじめは断っていた。「考えられることは、古文書の入門書を出して、古文書の文字から偏なり旁なりの見当がある程度つけられるくらいにまで読めるようにできれば、字典を引いて確認することができる。江戸時代の達筆の文字は前後関係から意味をとることのできるものも多いので、とにかく慣れさせることが肝要だ。そのためにも、まず古文書の入門書が必要だ」と説明した。さらに、「江戸時代のくずし字はくずし方が様々であり、『被下候』や『被仰候』など、下からひっくり返って読む字も多いので、とにかく慣れさせなければならぬ」とも説明した。しかし高橋さんの熱意に

負け、最終的には入門書的な部分を織り込んだ『近世古文書解読字典』を刊行した。刊行に際しては、若尾俊平さん（故人）、浅見恵さん、西口雅子さんのご協力を仰いだ。一九七二年の初版から今年の二月までで三七刷を超えており、今でも『古文書字典』のなかではトップだと聞いている。

私が柏書房と関わった最初の二冊は、一冊は品切となったが、もう一冊は三〇年以上も売れ続けている。これらが「古文書の柏書房」というブランド作りに大いに役立ったことは、大変喜ばしい限りである。

（はやし・ひでお／立教大学名誉教授）

本物の古文書を手にとってみることができる公共機関

☆弘前市立図書館

所在地▼弘前市大字下白銀町2-1

電話▼0172(32)3794

交通▼JR弘前駅よりバス、市役所前下車、徒歩ですぐ

設立が明治時代にまで遡る、歴史と由緒のある図書館です。津軽家・弘前藩政に関する古文書や弘前藩領内村々の貴重な古文書などを所蔵しています。

利用方法 古文書を閲覧する場合には、二階の調査室に備え付けの目録で閲覧したい古文書を特定し、申請書へ記入のうえ、受付へ請求してください。

☆西東京市中央図書館

所在地▼西東京市南町5-6-11

電話▼0424(65)0823

交通▼西武新宿線田無駅下車、徒歩3分

西東京市は、田無市と保谷市が二〇〇一年（平成一三）に合併してできた市です。同図書館では、特に『田無市史』の編纂にともなって集められた田無村の名主下田家の古文書など一万四千点が、地域・行政資料室に保存されています。

利用方法 古文書を閲覧する場合には、地域・行政資料室受付へ請求してください。複製化されている史料は複写が可能です。

◆京都府立総合資料館

所在地▼京都市左京区下鴨半木町1-4
電話▼075(723)4831
交通▼京都市営地下鉄烏丸線北山駅下車すぐ

「京都に関する専門資料館」として、京都府域に関する古代から近代までのおよそ七万点の古文書を所蔵しています。内容は多岐にわたっていますが、このなかには国宝の「東寺百合文書」や重要文化財の「革嶋家文書」、旧山城国内の諸藩家臣に伝来した古文書などがあります。毎年秋に古文書解読講座を開催しています。

利用方法 目録などで閲覧したい古文書を特定し、申請書に記入のうえ、文書閲覧室受付へ請求してください。複製化・マイクロフィルム化されている史料は複写が可能です。

◆柳川古文書館

所在地▼柳川市隅町71-2
電話▼0944(72)1037
交通▼西鉄柳川駅下車、徒歩10分

筑後地方に残る貴重な古文書の収集・保存と公開を行なっています。国の重要文化財「大友文書」「立花家文書」「鷹尾神社大宮司家文書」をはじめ、柳河藩政に関する古文書や柳河藩領内の武家・寺社・町方・地方文書などを収蔵しています。毎年、古文書解読講座を開催しています。

利用方法 閲覧室に備え付けの目録で閲覧したい古文書を特定し、申請書に記入のうえ、受付へ請求してください。複製化・マイクロフィルム化されている史料は複写が可能です。また、閲覧者自身でカメラ撮影することもできます。

寺子屋検定クイズ なんと読む？

古文書の学習をするときに一番困ること、それは毛筆で書かれたくずし字を解読しなければならぬことです。ここでは、古文書解読の鍵を握る頻出のことばから出題しましたので、ぜひ挑戦してみてください。

問1 現代語訳は「ございます」。

おどろ

問2 村のなかのNo.1とNo.2です。

あまのり

問3 古文書ことばの代表格。意味は「命じられる」です。

おどろ

問4 江戸時代の金の単位です。

金二両五分

問5 時代劇で、偉い人から物などを貰ったとき

などに発するセリフです。

雅有は各

問6 農民の名前によく使われます。

次郎左衛門

問7 古文書の代表的な表題です。

名義書付の御座候

問8 古文書の最後に書かれる決まり文句です。

候御座候

全部で8問出題しましたが、いかがでしたか。

この8問のなかに出てきた漢字は全部で36個(重複除く)。でも、この36個は古文書を読むうえで本当に大切な漢字ばかりですので、文字をグッとにらみつけて覚えていきましょう。

申	候	上上	8問	依	如	件
問	6	次	左	衛	門	7問
問	4	金	三	式	分	5問
問	1	御	座	候	2問	名
問	3	被	組	頭	3問	主
問	1	御	座	候	1問	名
問	1	御	座	候	1問	名

● 文

❖書店店頭から

ジュンク堂書店大阪本店・岡村正純

ジュンク堂書店大阪本店

所在地▼大阪市北区堂島1-6-20 堂島アバンザ1F～3F

交通▼JR北新地駅2分、地下鉄四つ橋線西

梅田駅2分、JR大阪駅10分

電話▼06(4799)1090

ジュンク堂書店は、平均的な公共図書館よりも本が揃っており、体系的に分類された棚の魅力と、ゆったりした空間と、そして問合せにも気持ちよく応対してくれる書店として、読者から高い評価を得ている書店です。全国で25店舗あります(編集部)。

古文学は歴史学に必須のツールである。従って歴史書に隣接して(あるいは包摂されて)置か

れることが多い。また、歴史学の材料である史料(集)と並べられることも多い。ジュンク堂書店大阪本店でもそのような考えから日本史の隣の棚に配置している。

古文学という書店ジャンルのなかには、本来の古文学のほか、古文書の読み方、家紋、家系、苗字の本、アーカイブズ論などが含まれるが、もともと需要があるのは古文書の読み方である。近年の自治体やカルチャースクールなどでの古文学講座の盛況もあり、研究者をめざす学生さん以外のお客さんも目立っている。

当店でのおすすめ本は、まず『くずし字解読辞

典』（東京堂出版）である。これは類書と違い、起筆順でひけるので、まったく初めて古文書に向かう人でも使うことができる。普及版のほか、より古文書の形に近い毛筆版も出ている。また、フリーズごとにひける『くずし字用例辞典』（東京堂出版）もある。必備図書といえる。

つづいてのおすすめは、『古文書はこんな面白い』（油井宏子著、柏書房）と『寺子屋式古文書手習い』（吉田豊著、柏書房）である。いずれも非常に実践的だけでなく、興味深い文書を選んでおり、読んで面白いテキストになっている。模様にはか見えない字を解説したり、なじみのない用語ばかり出てくると少々嫌気がさすものだが、内容自体に興味が持てるように工夫されている。『妖怪草紙―くずし字入門』（アダム・カバツト著、柏書房）という愉快な本もある。

解説したあとに必要となる、本来の古文書学の定番といえば『古文書学入門』（佐藤進一著、法政大学出版局）である。中世以前が中心なので、カルチャースクール系とはあまり縁がないかもしれないが、基礎知識として読んでおいて損のない本だと思う。

古文書学は、どこにでもおいてある分野ではありませんので、広い棚ではありませんが、興味のある方は一度本を見に来てください。

●大人気の古文書講座がそのまま一冊の本になりました

古文書はこんな面白い

油井宏子〔著〕 A5判・二六〇頁 一、八九〇円 ISBN4-7601-2676-7

●小さいのに驚くほどの情報量！ 携帯に便利なハンディ版

入門 古文書小字典

林英夫〔監修〕 柏書房編集部編

B6変型判・五六四頁 二、一九四〇円 ISBN4-7601-2698-8 (価格税込)